

プレスリリース  
報道関係者各位

2020年6月30日  
株式会社シーフードレガシー  
熊本県海水養殖漁業協同組合  
浦田水産株式会社

### ASC認証取得を目指して日本初マダイ養殖業改善プロジェクト（AIP）を開始

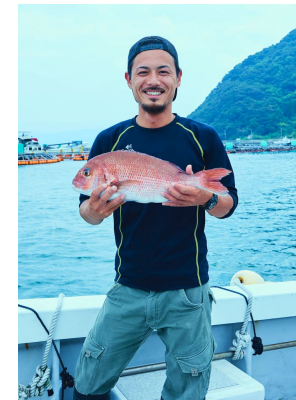
この度、株式会社シーフードレガシー（花岡和佳男代表取締役社長、東京都中央区）は、熊本県養殖漁業協同組合（深川英穂代表理事組合長、熊本県天草市）および浦田水産株式会社（浦田昌輝代表取締役社長、熊本県天草市）と協働で、日本初のマダイ養殖業改善プロジェクト（Aquaculture Improvement Project, 以下：AIP）を2020年6月30日より正式に開始いたします。



日本国内第二の養殖マダイ生産地である熊本県は、主に天草上島・下島の周辺と本土側の芦北地方周辺の恵まれた沿岸地形と海況を生かし、昭和40年頃（1965年頃）から魚類養殖業を発展してきました。年間10,000トンの収穫量がある養殖マダイは同県の主要養殖業の一つであり、県全体の養殖魚の収穫量における魚類別占有割合の5割以上を占めています<sup>1</sup>。また、県が推進している熊本県適正養殖業者認証制度によって、国産の種苗の使用、養殖日誌の記録、定期的な医薬品残留検査などのルールを徹底することで、消費者に安全・安心を確保した県産養殖魚を提供しています<sup>2</sup>。

本プロジェクトでは、熊本県天草諸島にてマダイ及びシマアジ海面養殖業を営んでいる浦田水産株式会社のマダイ海面養殖業に対して、浦田水産が所属する熊本県海水養殖漁業協同組合と協力し、2021年9月にASC認証の取得を目標としたAIPに取り組んで参ります。

昨年度に、審査機関にて実施されたASC認証予備審査で特定された課題に基づいたAIP活動計画を株式会社シーフードレガシーが作成し、プロジェクト期間中にASC基準を満たすレベルまでその他関係者と協力しながら実施いたします。AIPの取り組み内容といたしましては、養殖場が周辺生態系および生息域に与える影響のモニタリング、飼料や稚魚の持続可能性の評価、病害虫の管理、養殖場が社会的責任に関する方針策定などが含まれます。



参加者からのコメント：

浦田水産株式会社（代表取締役 浦田昌輝）：

「天草市御所浦の八代海の温暖な内海で、種苗から完全人工養殖・完全配合飼料育成により、年中安定した品質で管理、提供しております。このプロジェクトで環境・人権・持続可能性・トレーサビリティ

<sup>1</sup> 平成30年「熊本県の水産」（熊本県農林水産部、2019）

<sup>2</sup> 平成30年「くまもとの農林水産業」（熊本県農林水産部、2019）

ティーンに改めて取り組むことで、養殖業の可能性を高め、未来への発展に繋がるように取り組みます。」

#### 熊本県海水養殖漁業協同組合（加工課営業課長 金棒昭幸）

「私ども熊本県海水養殖漁業協同組合は、海面魚類養殖業を営む漁業者で組織したいわゆる業種別専門漁協です。所属組合員の所在地は、天草上島・下島を主として広範囲に及んでおります。地域漁業の振興と地域の発展を願い、組合員・地域の皆さま方の生活基盤と基幹産業としての養殖漁業の発展のための事業を総合的に営んでおります。ASC認証取得を目指しAIPに取り組むに当たり、『養殖そのものが及ぼす環境への負荷を軽減し、これらに配慮した養殖業に携わる地域の人々の人権を守り、暮らしを支える。』ことを目標に事業に取り組んで参ります。」

#### 株式会社シーフードレガシー（取締役副社長 村上 春二）

「国際的にも厳格な基準として知られているASC認証取得に向けて日本初マダイAIPを発足されることは、プロジェクトにご尽力される関係者皆様の努力を国内外へと発信し市場競争力を高めるだけではなく、地域経済への貢献そして大きな潮流となりつつあるSDGsへの貢献へと繋がる大変有意義な取組であると考えております。本プロジェクトを通じて、関係者および地域の繁栄そして国内養殖業の成長戦略化にも良き事例となり得るよう邁進して参ります。」

#### 参加組織：

##### ■熊本県海水養殖漁業協同組合

熊本県海水養殖漁業協同組合は、海面魚類養殖業を営む漁業者で構成される業種別漁協で、販売、加工、購買及び指導の各事業を行なっています。与える餌、生簀ごとの魚の管理、加工、出荷までの徹底した品質と衛生管理。そして、漁場の水質調査や底質検査、海の清掃も行い環境保全にも努めています。

##### ■浦田水産株式会社

浦田水産は、熊本県天草市御所浦町でマダイ及びシマアジの海面魚類養殖業を営んでいる養殖業者です。浦田水産のマダイ養殖業では、天草市御所浦町に位置する樋島漁場で稚魚から1年半育成し、前島漁場の生簀に分養して更に1年かけて出荷サイズである2kg前後まで育成しています。

##### ■株式会社シーフードレガシー

シーフードレガシーは、社会・経済・環境におけるサステナビリティを念頭に、海と人をつなぐ象徴としての水産物（シーフード）を豊かな状態で未来世代に継ぐ（レガシー）ことを目指す、ソーシャル・ベンチャーです。世界を網羅する幅広いネットワークや専門知識を活かし、国内外の漁業者、水産企業、NGO、政府等と協働して、日本の水産業に適した解決策を描きます。

熊本マダイAIPの詳細に関してはこちらをご参照ください：

[https://seafoodlegacy.com/cases/kumamoto\\_madai/](https://seafoodlegacy.com/cases/kumamoto_madai/)

#### **本件に関するお問い合わせ**

・株式会社シーフードレガシー（広報担当：山岡）

[miki.yamaoka@seafoodlegacy.com](mailto:miki.yamaoka@seafoodlegacy.com)

080-3550-2920

・熊本県海水養殖漁業協同組合（加工課：金棒）

[kanabo@marukuma.or.jp](mailto:kanabo@marukuma.or.jp)

TEL 0969-72-1221 / FAX 0969-72-1222

・浦田水産株式会社（代表取締役：浦田）

[masaki@uratsuisan.com](mailto:masaki@uratsuisan.com)

TEL0969-67-2017 / FAX0969-67-3898